

第10回 佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会

議事概要

1. 開催日時・開催場所

日時：令和4年5月26日（木） 14:00～15:00

場所：WEB 会議形式による

2. 出席者

「出席者名簿」のとおり

3. 議事

- (1) 佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会の目標及び取組方針の確認
- (2) 令和3年度の佐波川出水状況について対応状況の確認
- (3) 佐波川水系の減災に係る取組内容と取組状況の共有
- (4) 令和4年度における各機関の取組に関する意見交換

4. 委員からの意見等

(周南市長)

- ・和田地区の支所・市民センターの建て替えについて、地元住民との協議の結果、当面は和田中学校を活用することとなり、今年度中に移転を予定している。和田中学校を含め和田地区の全体が島地川の浸水想定区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、早期避難が大事であると考えている。今年度は、地域と協力して自主防災組織による地区防災計画作成の支援や、率先避難事業を進め、和田地区の地域防災力強化を目指す。
- ・新しい取組として、市指定避難所となる市民センターなどへ、非常用電源設備の整備を進める。具体的には、周南市の特色でもある、水素燃料電池自動車等を電源とした給電設備を整備し、今年度から、毎年5箇所程度ずつ、計画的に整備を進めて行く予定。

(山口市副市長)

- ・5月15日に実施した「洪水に対してリスクの高い区間の共同点検」では参加した消防団員から「事前に危険個所の現状が分かり、非常に良かった。梅雨時期に向かって気を引き締めたい。」との声も聞かれ、迅速な水防活動に向けた情報共有が図られた。
- ・昨年5月に努力義務化された個別避難計画の作成を円滑に進めていくため、避難行

動要支援者全体名簿の作成から個別避難計画の管理まで地図情報と紐づけながらトータルに管理する「避難行動要支援者管理システムの導入」の導入を進めていくこととしており、来年3月1日の正式稼働を予定。

- ・老朽化が進んでいる徳地総合支所について、徳地地域交流センター、消防団車庫、山口市徳地診療所、徳地保健センターと併せた複合施設として、移転整備を進めており今年の秋には供用開始を予定。

移転先は災害時においても優先的に復旧が見込まれる国道489号沿いで、災害発生時には現地対策本部として救助・救援・災害復旧に取り組む。

(防府市副市長)

- ・昨年度の8月12日から14日の大雨の際は、防府市地区において近年国・県・市が連携して大規模に実施している河川浚渫により、大きな被害は生じなかった。
- ・山口河川国道事務所が実施された松崎小学校での出前講座「マイ・タイムラインを作ろう」は、教育委員会からも大変好評であったと聞いている。
- ・佐波川右岸に、災害時において主に広域的な輸送拠点のほか、応急仮設住宅の建設用地としての活用を想定した広域防災広場の整備を令和7年度の完成を目指して進めている。
- ・今年度の出水期に備えて、市広報等により、避難情報等の入手方法として緊急告知防災ラジオのほか、市内65か所の河川監視カメラなど防災情報が一斉に見られる防府市河川等防災監視カメラシステムの周知を行い、命を守るために「まずは逃げる」ことの重要性について啓発を行う。

また、6月4日には、大道地域・西浦地域・中関地域において大雨等を想定し、地域住民が主体となった実践的な防災訓練を実施する予定。

(山口県総務部理事（危機管理担当）)

- ・昨年度は59名を自主防災アドバイザーに委嘱している。少子高齢化により自主防災組織の担い手が減少しており活動の停滞が懸念されているため、自主防災組織の活性化が図れるよう引き続き取り組む。
 - ・小学生を対象にAR機器を用いた防災体験学習講座を実施したほか、全小中学生を対象に避難カードを配布し、家庭や学校でカードを作成してもらっている。これらの取組を学校と連携しながら引き続き行う。

(下関地方気象台長)

- ・線状降水帯について、気象庁として総力をあげて取り組んでおり、今年度からは半日先までの予測情報を地方予報区単位で開始する。将来的には市町村毎に予測情報を発表することが目標であり、情報の適時適切な発表、精度向上に努める。

(山口河川国道事務所長)

- ハード対策については流域治水プロジェクトで、様々な関係者と協働して治水対策を行う。
- ソフト対策については、円滑な避難行動に繋がるハザードマップの活用や危機管理型水位計、簡易カメラによる情報を地域住民の方に積極的に活用してもらえるように周知する。
- 防災学習の推進するにあたり、各機関と連携を図り、学校や地域の防災士との連携を強化したい。
- 河川水位予測に基づいた氾濫危険情報が発表されることで、早い段階から警戒を呼びかけることができる。予測精度が100%ではないが、空振りを恐れずに運用していきたい。